

## 審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	令和6年度 第1回松阪市図書館協議会
2. 開 催 日 時	令和6年9月27日（金） 午後2時00分～午後3時50分
3. 開 催 場 所	松阪図書館 2階 講座室
4. 出席者氏名	（委 員） ◎辻淳子、○中村陽子、相口学、阿波扶美子、小野家代子、栗本薫、西岡裕子、新良公子、濱田和男、山中数子、横山みち代 （◎会長 ○副会長）  （事務局） 松阪市図書館館長（株式会社図書館流通センター） 松岡 生涯学習課長 小泉 生涯学習課長補佐 山本 生涯学習係長 佐々木 生涯学習係主任 藺部 生涯学習係主任 笠原 生涯学習係 萬濃
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0人
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局 生涯学習課 TEL 0598-53-4396 FAX 0598-26-8816 e-mail ikig.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項・議事録  
別紙

## 令和6年度 第1回松阪市図書館協議会 議事録

○開催日時:令和6年9月27日(金)午後2時00分から午後3時50分

○開催場所:松阪図書館 2階 講座室

○議題

1. 開会

2. 役員選出

3. 会長挨拶

4. 自己紹介

5. 協議事項

①令和5年度松阪市図書館実績報告について

②第四次松阪市子ども読書活動推進計画策定について

③その他

・三雲みんなの図書館コミュニカル及び飯高管内地域開放型図書館について

④意見交換・提言

6. 閉会

○出席者氏名

【委員】辻淳子、中村陽子、相口学、阿波扶美子、小野家代子、栗本薫、西岡裕子、  
新良公子、濱田和男、山中数子、横山みち代  
計11名

【事務局】松阪市図書館館長(株式会社図書館流通センター) 松岡

生涯学習課長 小泉

生涯学習課長補佐 山本

生涯学習係長 佐々木

生涯学習係主任 藺部

生涯学習係主任 笠原

生涯学習係 萬濃

## ●会長あいさつ

会長：今年の夏はすごく暑かったですが、本日お集まりいただけてよかったと思います。ありがとうございます。重ねまして、先ほどご承認をいただきましたので、2年間の任期の中、会長として頑張らせていただきたいと思いますので、忌憚のない意見をご頂戴いただければと思います。よろしくどうぞお願いいたします。私は普段保育園や学童の場におりますが、本当に今の子ども達の活字離れというのをひしひしと感じております。本日皆様のご意見をたくさんいただけることを嬉しく思います。よろしくどうぞお願いいたします。

## ●協議事項

### ①令和5年度松阪市図書館実績報告について

館長・事務局：令和5年度松阪市図書館実績について、ご説明します。

(資料に基づき、館長・事務局から説明)

内容…図書館利用統計、資料区分別貸出冊数、利用状況、定例行事・特別行事、テーマ・展示本コーナー、飯南・飯高地区貸出統計、電子図書館実績)

委員長：先ほどご説明いただきましたが、何か皆さん質問等ございませんでしょうか。

委員：資料3-1の図書館定例行事につきまして、私は図書館見学に興味を持ちました。やはり子ども達がこうして来てくれるということは、少なくとも本への親しみ、あるいは読書への誘いといった効果があるかと思います。例えば図書館見学の中で、どういったことをしてみえるのか詳しく教えていただきたいと思います。

館長：図書館見学につきまして、保育所・幼稚園と小学校では異なりますが、施設によって様々です。例えば松阪図書館でしたら、松阪図書館について説明をしたり、実際図書館の中を見学して、本を探す機械やリヴァーという図書除菌機を実際に動かしてみても館内を回ったりします。また貸出を希望される施設もありますので、自分で本を選んで、借りていただくこともあります。おはなし会を希望される施設もみえますので、おはなし会をすることもあります。図書館の説明については、小さなお子さんには本が何十万冊といっても単位がわからないと思いますので、図書館の使い方の紙芝居で説明をして、図書館に親しみを持ってもらうようにしております。施設によって異なりますが、説明と案内と貸出といったことを主にしております。

委員長：私も参加させていただきたいと思ったのですが、日程調整等は事前に申し込みとなりますか。

館長：早いところだと半年前から申し込まれるところもありますし、1 か月、2 か月前のところもございます。遠足とあわせて申し込まれるところや小学校 3・4 年生の市の施設見学で来られるところもございます。学校ごとに求めることが異なりますので、事前に連絡いただき、ご相談いただいて調整させていただいております。

委員：私は飯高出身で、資料 5-2 の飯高管内の貸し出し状況など初めて見させていただきました。結構ばらつき等ではありますが、もう少し利用者を増やしていけないかなということを思いました。また関係の方と相談しながら、より良い方向に進めていければと思います。

委員：先ほど言われましたように、最近の子ども達が本を読まないというのは私もすごく感じているところでございます。資料を拝見させていただくと、図書館の方でいろいろな事を十分にしていらっしゃると思います。これだけのことをされて子ども達が本を読まないというのは、図書館云々というより時代のせいかな、と正直思ってしまいます。というのは、昔の私が子どもの頃はあまりすることがないので、例えば夏休みなどですと、することがないので家にある本を読もうかな、ということがありました。今の子どもたちは、本を読まなくてもテレビはある、スマホはある、ゲームはあるとすることがありすぎて、むしろ本を読むことの方が少ないということが当たり前のように感じます。実際私が接している小学生に夏休みの宿題で何が一番嫌か聞くと、読書感想文だといいます。夏の終わりになって宿題が終わったか聞くと、読書感想文が残っていると、どの子も口をそろえて言います。そんなにみんな本を読んでいないのかなと、ショックではありません。でも図書館でこれほどのことをしていただいているのに参加できない子ども達は、ある意味ではかわいそうに思います。もっと本を読めるような環境にするには、どうしたらよいのか正直わかりません。小さな子達と活動しているのですが、私がこの「かのん」というグループを立ち上げたのは、音楽とおはなしとを結び付けて子ども達にするというので、20 年ほど前になります。おはなしや紙芝居の後ろに音楽をつけて子ども達に楽しんでもらうというものになります。この音楽をつけるということを皆さんがどう思うかお聞かせいただきたいなと思います。というのは、正直申し上げますと私も本に集中したいときは、周りに音があると集中できないので静かなところで本を読みたいです。でも小さい子ども達に絵本を読むときは、場面ごとで音楽があると子ども達が集中しますので

必要かと思います。実際図書館で音を鳴らすというのは、敬遠していることで、私達の活動もこのお部屋で、閉め切った中でさせていただいております。この音と本とを合わせて活動できる場所をもっといただけるといいかなと思います。

委員：先ほど言った方と被るかもしれませんが、読書に最初に触れるというのは、お母さんが絵本を読んであげるというのが、初めてになると思います。しばらくして学校に通うようになると、辞書を見たり図鑑を見たりと本に興味を持つということや、国語の時間であったり物語や童話であったりを通して活字に触れてみたくなるというようになります。ただある時からスマホが登場してきます。そうするとやはり面白いコンテンツがいっぱいありますのでそちらの方にいってしまいます。でも小さいときから本に興味を持っている子というのは、大きくなっても本を手にとって読むという触感には体に残っていると思います。スマホ等で見ていただけでは心に響かないので、一回ダウンロードして読んでしまったら終わりというのをなくしていくべきだと思います。小さいころから見学に来るというようにいろいろなことで本に触れるというのが大切かと思います。

委員：こうして聞かせていただくと、図書館でいろいろな行事とか展示とかたくさんさせていただいていますが、みんなあまり知らないのではないかなと思います。私はいつも本を借りに来ますのでその時にポスターを見たり、松阪ナビ等でお知らせが来たりして知ることができます。まず図書館に来ないと知る機会が少ないですし、図書館が来にくいところになってしまうと思います。例えば先ほどの学校から体験に連れてきてもらうとか各学校の方にもっとアピールするとか、みんなに周知されるようにしたらもっと大勢集まるのではないかなと思います。そこから行事だけではなく、足も向きやすくなっていいのではないかなと思います。

委員：ここ一、二年で生活を取り巻く環境が激変しているように思います。災害がありコロナがあり、外へ出るにも出られないといった制約があって、図書館へ行きたくても行けないというか、本を好きになる方向へもっていくにも、困難な状況でした。精神的にも打ちのめされるくらいつらい日々でしたから、子どももすごく大変だったと思います。そういう意味で災害が終わって、ここ一年くらいでまた通常に戻ってきて、子ども達がまた本の方に興味が向いたり、私達にもお声がかかってまた絵本を読む機会が増えて来たりするのではないかなと思います。家にも本が読めたり買い物ができたりするような時代ですから、環境が変わ

り、子ども達も本になかなか目がいかなかったのが本心ではないかと思います。

委員：私は三雲みんなの図書館コミユカルというところをよく利用します。松阪市内でも小さな図書館というより図書室に近い大きさの図書館です。子ども達の利用が多いのが特徴で、天白小学校の中にあります。当然小学校と同じ空間にありますので、子ども達も行き来がしやすいというのがあります。最近利用して思っていたのが、中学生の方が放課後寄られる様子を時々見るようになりました。何をするかというと宿題をやりに来る子がほとんどなのですが、本を読む空間だけではない図書館の使い方について、今の子ども達にはコミュニティの場にもなっているのだと思うようになってきました。

委員：図書館の利用状況とかいろいろな催しのことをきかせていただいて、皆さんおっしゃいましたがこれほどたくさんの行事をしていただいているのだと感心というか、びっくりしました。私は退職したのが、定年少し前なのですが、一番したい読み聞かせをまずしたいと思い、飛び込みました。お恥ずかしながら、図書館へ足を踏み入れたというのが、たぶんその時が初めてなのではないかと思いません。松阪市に来て、子育て・仕事で忙しく、子どもに自分で買った絵本の読み聞かせはしましたが、図書館で借りるというのはなかったと思います。図書館へ足を運ぶようになって、これほどたくさんの素敵な絵本や紙芝居、文学作品があるのかと足しげく通うようになって、自分もたくさん本を読むようになりました。やはり今の子ども達の本離れが進んでいる、他にたくさんの魅力あるものがあるというのもありますし、大人も忙しくなっている、子ども達も勉強やクラブ活動で忙しくなっているというのがあります。だから本を読んだり図書館へ足を運んだりというのがなかなか難しい今の状況になってきたのかと思います。私達も小学校数校に読み聞かせにいらしております。そこで本を読んだり紙芝居をしたりすると、子ども達は一生懸命聞いてくれます。そのことで、少しでも読書に目を向ける、本を読みたいなどと思ってもらえるようなことに期待を持って活動させていただいております。それがどれだけ効果があるのかわかりませんが、子ども達はとても楽しみにしてもらっているという感じはあります。何とか図書館見学を通じて学校から単体で来て、図書館のいろいろなものに触れる、それからじゃあ借りようというきっかけになる、そういうことをどんどん進めていただくとありがたいなと思います。

委員：私も定年退職してからいろいろな本を読み始めました。改めて本の魅力、一つのものを通して、あるいはいろいろな広がりがある中でできてる、これは何とも言えない魅力だと思います。ところが現状は子どもだけでなく大人も含めて、読書離れが懸念されます。いろいろな要因があるのですが、子どもの頃に読書の向き合い方あるいは読書の面白さを知れば、どこかでまた花開いていくのではないかと思います。ですから子どもの読書をどう広げていくかというのを、資料を見ながら考えておったところ、その中で資料 4-1 に図書館テーマ・展示本コーナー「教科書で紹介された本を読もう」があり、思っていた手掛かりはこれだなと思いました。つまり子ども達は、小学生も中学生も高校生もそうですが、本というか物語に接するあるいは説明文の教材に接するその一番のポイントは国語の授業です。教科書であっても子ども達が本を手にとって読むということは非常に意味があります。ですので、こうして教科書の教材を紹介していただくのは、重要な意味を持つと思います。ただそうであっても子ども達が図書館に向かってこなかったら、こういった機会はないわけです。もちろん学校の先生の中にも関連の本や同じ著者の本を借りて来たり紹介をしたりする方もみえます。しかし多くの先生はなかなかこうはできません。なかなか難しいとは思いますが、図書館の方からもっとアクティブに学校の方へ出向かれてはどうでしょうか。そうすればきっとそこから本や図書館に興味を持ってもらえると思います。また一般のところでもそうですが、大人にとってもそういった興味を持ってもらえるような企画はとても重要だと思います。

委員：私は図書館の本の修理をさせていただいておまして、毎年夏休みに子ども達の修理体験があります。そこに参加してくれる子どもたちに話を聞いていると、本が好きだとか図書館にもよく来るといったことを言ってくれます。図書館ではこれほどいろいろな行事をさせていただいているので、そこに参加してもらうにはどうしたらよいのかなと考えました。みんな本は好きみたいで、毎年 10～15 人くらい来てくれて、集中して取り組んでくれます。

委員：読書離れが進んでいる、確かに私もそう思います。この前テレビか何かで、このデータかわかりませんが、特に小学生で一人の読む冊数が増えているというデータを見ました。その根拠として、学校での「朝読」が取り上げられていました。朝読という習慣が入ってからはずいぶん経ちますし、それぞれの学校の取組も違うと思います。特に中学校だと、運動部の先生の考え方と読書を推進しようという先生の考え方が異なるのでなかなか難しいところがあると思います。朝読

をする効果というのは、少しずつ出ているのかと思います。朝読の本を図書館から借りるその中継ぎをしてくださっている先生いらっしゃるところは、とても充実します。その先生をサポートする学校司書さんは、巡回してくださっています。司書さんが本を紹介したり運んできたりしてくださるといいのですが、残念ながら司書さんにきくと週に一回なので、図書の受け入れ作業で一日の仕事が終わってしまうとのことです。図書館を整備して、子ども達を呼び込んで読書につなげるということができなくて残念ですと、おっしゃっていました。もちろんそれが先生方にかかると大変なので、司書さんがそれしてくださるのは大変ありがたいことと思います。その司書さんを手伝うボランティアさんが入っている学校だとうまくまわっているということもききます。それぞれに図書館さんが工夫されているのと、学校さんが工夫されて読書を広げていこうとされているのがあって、現状を保っているのかなと思います。それから先ほど読書感想文の話がありましたが、読書感想文は本好きを減らすと思います。楽しく読めたら本は楽しいものですが、あれほどたくさん量を書けというのは、嫌いにさせているかなと思います。

委員長：ありがとうございました。委員さんそれぞれから報告に基づいて、貴重なご意見をいただきました。まずは指定管理になってからずいぶんな年数がたっております。私も指定管理の選定に関わらせていただきまして、今皆さんが図書館の方でいろいろしてくださってよかったというのをお聞きして、指定管理で選ばせていただいてよかったなと思います。それとやはりそのためには、松阪市の運営から指定管理となりましたので、松阪市のときの運営はそれで良かったですが、今指定管理で一生懸命にいただいているので、行政主導のもと住民の方には喜んでいただいているかと思います。ただ、今お話があったように参加できる子どもは良いと思いますが、単純に言えば歩いて行ける範囲の子どもは良い、しかし歩いていけない子どもは行きたいと思っても行けるかというところで、その地域性ということがあります。また保育所・幼稚園・小学校の子どもはみんなが図書館見学できるのかということも、当然出てくると思います。とてもいい事業の中で、これからはその地域格差をなくすためにどうしていけばよいのかということも今後の課題になってくると思います。先ほどの小学校の教科書を学ぶもそうですが、学校の先生との連携、地域の方との連携が必要になってくると思います。この協議会の中だけでつめるだけでなく、次のステップへすすむ大事な意見をいただいたと思いますので、行政・指定管理の図書館と今後もお願いできればと思います。

委員：私達「かのん」は、幼稚園とか保育園、子育て支援を主に回っています。今20年たって名前を皆さんに知っていただいているといいつつも、コロナのせいだけとは思いませんが、園長先生が変わると声がかからなくなってきました。私達としては、子ども達にもっと読み聞かせをできるチャンスがあればと思っています。私達が活動を始めたときには、会員の中に保育園関係者がおりましたので、その関係で保育園の園長先生や知り合いがいたので呼んでいただきました。もう今私達も高齢化してきましたが、園長先生がどんどん代替わりしていきます、そうするとお話の機会を知らない園からは声がかからなくなるという実態があります。そのあたりのことを例えば、第三次松阪市子ども読書活動推進計画の冊子に読書ボランティア一覧表というのがありますが、これを見ると活動しているのはわかりますが、連絡先等はわかりません。市のほうでボランティア活動をしているグループで連絡先等も紹介していただくようなことは可能でしょうか。

委員長：そちらにつきましては、次の事項にあがっておりますので、そこで詳しく事務局の方から説明いただければと思います。

## ②第四次松阪市子ども読書活動推進計画策定について

事務局：第四次松阪市子ども読書活動推進計画策定についてご説明します。

(資料に基づき、説明)

事務局：補足としまして、先日開催された第4次子ども読書推進計画の第2回ワーキンググループで、ワーキンググループ委員である幼稚園長から読書ボランティアに関する話が出ました。全ての園が読書ボランティアを知っているわけではなく、「読書ボランティアとは何か？」や「どのように連絡を取れば利用できるのかがわからない」という園もありました。実際に公立の園でお願いしているところもありますが、全ての園で依頼できているわけではありません。これまで依頼してきた園は「今年もお願いしようか」という流れで継続しているため、読書ボランティアについて知らない園は利用できていないのが現状です。利用している園は少なく、「読書ボランティア」という言葉を聞いても知らないところが多いのが実情です。そのため、子ども読書活動推進計画の中で目標を立てるのであれば、どのような活動をしているのか、どのようにすれば利用できるのかを周知するためにも、読書活動計画や読書ボランティアにつ

いて改めて説明してほしいという意見がありました。

委員：私が思ったのは、園長先生が変わられると申し送りをさせていただいた園はこちらに連絡をいただけるのですが、そうでないところからは声がかからなくなります。ですので、例えば書類のようなものに、訪問が可能なボランティアの連絡先を表のようにして各園に渡すようなことは可能でしょうか。はじめは名刺を作ってお渡ししていましたが、最初こちらから園に声をかけると警戒されてしまいます。当初は会員に園の知り合いがいたため違和感なく入れ、そこから声が広がっていきました。そこで図書館等からのバックアップがあるとなると、園の方も安心して受け入れられるのではないかと思います。たくさんボランティアさんが活躍できる場所を、市の方からも応援していただけるとよいかと思います。

事務局：ご意見ありがとうございます。確かにコロナ禍の最中にいろいろな活動が止まりました。当然保育所・幼稚園といった保育の現場や教育の現場でも、いろいろな活動が制限されました。去年まで読み聞かせの人たちが来てくれていたのになくなったと思うのが一年目の子ども達、二年目になると来てくれたことが忘れられていく、それが先生方でも引き継がれず忘れていくというのが、よく聞く話です。実は私どもの生涯学習課では公民館も所管させていただいております。公民館でも講師・先生やサークル関係など、リストは作っておりますが個人情報の問題等ございますので、連絡先は載せておりません。まだこれからの話ですが、実は公民館等にかかわらず、広報広聴課の方で「松阪市地域づくり応援人材バンク」という制度をつくっておるところです。そこで登録をしていただいて、本人さんの承諾を得て連絡先を公開していきますので、ニーズとのつなぎ役というのを市の方でさせていただけるかと思います。詳しく内容等お知らせできる時期になりましたら、またご案内させていただきます。ご理解よろしく願いいたします。

委員長：私は学童保育や保育園の現場におりますので、そういった一覧があれば、もっといろいろな活動を皆さんにお願いできるかと思います。現場としては、絵本等いろいろなことを必死に考えられている方に子どもと直接対峙していただく時間があるというのは、子どもにとっても幸せな時間かと思うので、ぜひまとめていただいてご紹介していただければと思います。また小中学校の校長会・保育園・幼稚園等も園長会がありますので、そういったところでも市の方から紹介いただければありがたいかと思います。

委員:第2章の1のところ子どもを取り巻く環境の変化ということでICT云々というふうにかかれています。今や小中学校では一人一台iPadを持っているという状況なので、例えば松阪図書館のデジタル図書などをiPadで自由に見られるようなことができれば、少しでも子ども達にそういう機会を与えられるのではないかと思います。そういうことがあると隙間時間にも読めるので、子ども達を本好きにつなげていけるのではないかと思います。

事務局:ご意見ありがとうございます。実はタイムリーな話でございまして、総合計画を今年度策定しておる最中でして、電子図書・電子図書館の部分の話で令和9年に貸し出し実績を2000人まで上げていくという目標を据えているようなことをしていこうと考えております。今おっしゃられた通り、子ども達は一人一台タブレット端末を持っています。その子ども達がみんな電子図書を読んでもらえると、すぐに達成することができます。学校のICT担当との協議はもちろん必要になります。紙ベースではなくなりますがいつでもどこでも好きな時に読める、読書形態の変化ということもあるかと思いますので、子ども達のタブレットを使った読書という部分では、生涯学習課としても推進・拡充していきたい所存でございます。

### ③その他

・三雲みんなの図書館コミュカル及び飯高管内地域開放型図書館の実績報告について

事務局:「三雲みんなの図書館コミュカル及び飯高管内地域開放型図書館」についてご説明します。

(資料に基づき、説明)

委員:先ほども言いましたが、三雲みんなの図書館コミュカルは子どもの利用が多いことが特徴の図書館です。また司書さんが常駐しているメリットを活かしている図書館かと思います。公立の他の小中学校はどうしても司書が巡回する形態ですが、天白小学校は幸いにも小学校の図書室が隣にあり、司書が常駐している状態ですので、本を紹介していただく機会が非常に多い小学校時代を過ごせるのはとても良いと思います。利用している小学生の話もよく聞くのですが、新しい本を読みたいと思った時にすぐに相談ができるので、学校の先生だけでなく、司書さんから紹介していただけるメリットがあるなと思っています。

委員：今回初めて飯高管内地域開放型図書館の資料を見させていただきました。飯高の3か所では確か学校司書が週に1日ずつ巡回だったと思います。ですので、地域開放図書館も曜日で分かれていると思います。そこで週に1日ではなく、週に1.5～2日とか少しでも増やしていただけたら、開館日数が増えて実績もさらに伸びていくのかなと思いました。

委員：一つだけ要望をさせてください。三雲みんなの図書館コミユカルでの読書環境ですが、照明が大変暗いです。読書するには環境が少し整っていないなと思っていて、特殊な天井で少し斜めになっているので、蛍光灯が切れてもなかなか修理できないという現状を司書さんの方からもきいています。子ども達が絵本を読むスペースがありますが、そこも暗く絵本を広げて読むには照度が低いです。もし改善していただければ幸いです。

事務局：ご不便をおかけしておりまして誠に申し訳ございません。公共建物には市の方針がございまして、順次LED化を進めております。学校の施設内にもございますので、学校のLED化のスケジュールの中で、同時に動いていきます。手元に資料がございませんので、いつとは申し上げられませんが、LEDになる予定はございますので、もうしばらくお待ちくださいということで、ご理解いただければと思います。

委員：先ほどから地域格差のないようにという言葉が委員長の方からありました。私も飯高町で飯高中学校の下あたりで、場所的に宮前小学校に上っていくのですが、それさえも高齢化とともに坂道が困難になってまいりました。それぞれその時に応じた問題というのが出てくるものだなと心配もしております。

#### ④意見交換・提言等

委員：私達「おはなしキャラバン」は図書館のすばらしい環境の中で、毎週読み聞かせをさせていただいております。非常にありがたいと思っているのですが、一つだけ要望をさせてください。照明は素晴らしいのですが、夏が非常に暑いです。図書館さんも扇風機を準備していただいております。私達もサーキュレーターをキャラバンで購入しましておいておりますが、それでも暑く真夏は蒸し風呂の

ような状態です。来ていただいた親子も暑いから帰るとい人や行きたいけど暑いから行けないという声もあります。エアコンを設置していただきたいわけですが、構造上設置できないとお聞きしました。うちわを配布してあおぎながらしておるような状態です。エアコンは無理でも何か別の方法で涼しくしていただけないかなと切望しております。

事務局:皆さんが肌で感じていただいたとおり今年の夏は大変暑かったです。図書館は指定管理で年間契約をさせていただいております。決められた予算の中でやりくりしていただいておりますので、省エネ・節電を心掛けていただいております。ただ利用者の方の体調が一番だと思いますので、協議をしながら検討させていただきたいと思います。

委員長:ありがとうございます。私も最後に保育園とか学童施設の中で、子ども達を図書館に連れていくというところで、地域性もありますし安全性もありますので、皆さんからの意見もいただきましたが、図書館の方から大きな規模でなくてもよいので訪問していただいて、子ども達に直接対峙していただくような機会があるととても良いかなと思います。

以上 午後 3 時 50 分終了